



福祉生活部長  
東坂 力

### ゆうあいピック熊本大会を ボランティア元年に

ゆうあいピック熊本大会の開催にあたりましては、県民の皆さんのご支援をいただき心から感謝申し上げます。特に練習の過程でボランティア協力をされた方々から「ふれあえて良かった」「こんな機会がもっとあればいい」という声を聞きうれしく思います。大会終了後も障害者の方々のさまざまな活動の場面にボランティアの姿がある、そういう「やさしくまもと」づくりを進めたいと考えています。

## 「やさしくまもと」づくり

### ●ノーマライゼーションの推進

現在、県では、①安心して暮らせる福祉の基盤づくり②自立と社会参加の促進③おもいやりのある地域社会づくりの三つを柱として福祉の施策を進めています。特に、戦略プロジェクトの一つである「やさしいまちづくり」を今後積極的に推進していきます。これは高齢者や障害者などが、できるだけ地域の中で普通の生活を送れるようにするというノーマライゼーションの考え方を、ハード・ソフトの両面から実現していくというものです。

### ●街へ繰り出そう

ハード面の整備については、道路や建物の段差を解消したり、車イスも乗れるエレベーターを設置するなど、高齢者や障害者が気軽に街に出掛けて施設を利用できるような「やさしい環境づくり」を目指します。すでに平成三

年度から、県立劇場や県立美術館など約八十の県立施設の改良に取り組んでいます。今後はさらに市町村や民間の公共施設の改良促進を働きかけていきます。

### ●心のバリア(障壁)解消

生活環境の段差など、ハード面のバリア解消だけでなく、障害者に対する意識など、心のバリアの解消も大切です。県では「やさしくまもと」づくりへ向けて、県民ぐるみの取組みを進めていくことにしています。

この夏には県民、事業者、団体、行政で構成する「やさしいまちづくり推進協議会」の全県組織と地区組織を設置。今後さらに全県的な推進に向けて幅広く理解を求め、その機運を盛り上げていきたいと考えています。

また、平成六年度には、こうした「やさしい環境づくり」や「やさしい社会



そのままドリブルシュートだ



「どの種目に出場するの？」



練習の時から見事な演技です

## ボランティアは楽しい

### ●絶対勝てよ。応援してるけん

サッカーの練習相手を努めているのは東海大学第二、高等学校サッカークラブの一年生。マンツーマンでパスやキックの指導をします。「もっと足首をひねって。そうそうその調子」。説明は分かりやすく、一年生ながら堂々たる指導ぶりです。「高校生たちにとってもいい勉強になっているようです」と草野仁一郎先生。個別練習が終わると練習試合。高校生チームには「ドリブルはしない」というハンディが付けられます。この日は二対〇、高校生チームの勝ちです。「サッカー好き同士だし、プレイも楽しいです」と田上博喜君。荒い攻撃を仕掛けないところに、高校生たちの優しさが感じられます。高校生たちは、大会当日、ボールボーイなどボランティアとしても参加します。「一緒に練習したんだから、絶対勝ってほしい」と大塚史崇君。会場での声援が聞こえてくるようです。

### ●大会でまた会おうね

「以前からボランティアをやりたいかったから、いい機会と思ひ応募しました」と九州女学院短期大学一年生の杉山貴子さん。「大会コンパニオンのボランティアを呼びかけたら、予想以上に多くの応募がありました」と九州女学院短期大学教授の城弘子先生。学生たちは熊本市内にある愛育学園を訪ね、

障害者の方々とのひとときを過ごしました。

最初はボール運びや綱引き。「初めは言葉が通じなくて焦ったけど、すぐに分かるようになりました」と紫藤ゆかりさん。「ゆうあいピック」出場者との交歓会では、ゲームの時に仲良しになった障害児のところに席を移動してのおしゃべりに花が咲きます。「応援するからね」。互いの名前を教え合う場面も。ボランティアって案ずるより生むが易し。なのかもしれません。

### ●私たちが頑張らなくちゃ

ゆうあいピック熊本大会の華であるマスゲームには総勢四百名が参加。障害者二百名の他に、熊本短期大学学生と熊本商科大学付属高等学校二年生の二百名がボランティアとして参加します。練習は六月から県内六地区で個別に行なわれてきました。ボランティアで指導に当たっているのは、熊本短期大学教授の井上勝子先生。「施設を巡回すると『先生、覚えてきたよ』また練習するからね」と言ってくれるんです。こんなに楽しい練習はありません。合同練習日。「障害者の人たちが振り付けを良く覚えて来てるのに、私たちはあんまり覚えてなくて恥ずかしい」と高校生の白奥薫さん。「一緒に頑張ろう」という気持ちが一つになってきれいな華を咲かせてくれることでしょう。

### 式典・実施競技の開催期日及び実施会場

区分	日程	会場*
開会式	10月16日午前	熊本市水前寺競技場
閉会式	10月17日午後	熊本市水前寺競技場
後夜祭	10月17日夕刻	熊本県農業公園
ふれあい広場		熊本市水前寺競技場周辺
個人競技		
陸上競技		熊本市水前寺競技場
フライングディスク		熊本市水前寺競技場
卓球		熊本市総合体育館
水泳		熊本県立総合体育館
ボウリング	10月16日午後	熊本交通センターボウル
バレーボール	10月17日午前	熊本市総合体育館
バスケットボール		熊本県立総合体育館
サッカー		熊本県民総合運動公園
ソフトボール		熊本県民総合運動公園・県立熊本商業高校
フットベースボール		県立熊本工業高校

\*雨天時には変更される会場もあります

お問い合わせ先  
「ゆうあいピック熊本大会実行委員会事務局」  
〒862 熊本市水前寺公園14番22号パークビル4階  
☎096-385-5627 FAX096-385-5697

づくり」がより確かに推進されるよう、全国でも例の少ない「やさしいまちづくり条例(仮称)」を制定する予定です。

### ●地域の中で暮らす

知的障害者の自立と社会参加の動きとしては、障害者の方々が地域で自立して生活するグループホームが、今年度は四カ所から十カ所に増えました。障害者の方々が自分たちで買い物をしたり、町内活動に参加したりしながら、社会参加ができるようになりました。

また、今年四月、県下初の福祉工場「くんわ技研」が阿蘇町に開設されました。これまでの授産施設とは異なり、自宅やグループホームから通勤するシステムで、全国ではまだ十三番目の工場です。このように地域での自立生活の基盤が整備されつつあります。



「ゆうあいピック熊本大会」の開催を契機に、知的障害を持つ方々が県民の皆さんの暖かいまなざしの中で、一緒にスポーツ活動に励んだり、地域の中で共に働く機会がさらに拡充されるよう、取組みを進めていきます。